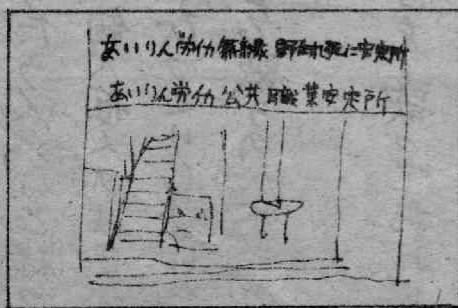


10月6日
今日、夜
7時

創造広場

望の家
集會室で
詩をつくらう



だが
我々は今の世の中における負け組である

家なし 子なし 友なし
金なし 夢なし 職なし

我々は何をもってるか
我々日雇にあるものはなにか
今の世の中、声の大きいものが勝ち
金をたくさんもっているものが勝ち

ありえるか

負けるが勝の転換は、いつ、そして

負け続けの先はやはり負け

ことが確実だとすれば

将来は現在の積み重ねの先にある

とこころで

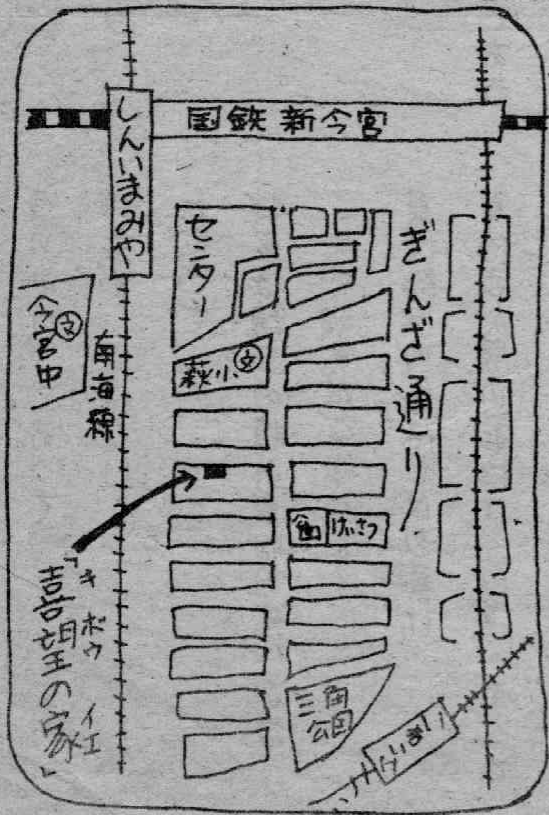
将来も、ではない

今の世の中であって

報生。先週は歌をうたったよ。」

歌は自分の経験からの
自分の声で、うたったよ。」

先週の創造広場では、みんなが歌をうたいました。中学生が学校で歌っている歌を中心に、秋の歌などをえらんで、合唱、輪唱、などをやってみました。でも、集った人が少なかったのになかなかうまくいきませんでした。そんな中で、一番おもしろかったのは、^可里の秋^とという歌を、集った人それぞれ一人づつ、歌ってみたときのことで、歌ってみると、みんなそれぞれ、声の出し方、力のいれ方、などが、違うわけですね。中学校の教科書の中の文部省唱歌の、おまじりの歌い方で



歌う人、こぶしをつけてうたう人、など様々です。一つの歌を歌っても、個人個人の生き方、経験が、出てくるのには、びっくりしました。やっぱり、歌は、自分の声で歌うのが本当の歌ではないでしょうか。最後に、『釜ヶ崎人情曲』を歌っておわりました。やっぱり、釜ヶ崎は、この歌が一番です。